

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

令和2年度第4回 理事会 議事録

令和2年6月18日(木) 20:30~22:30

静岡県浜松市東区半田山 1-20-1 浜松医科大学整形外科学教室

【出席した理事】伊東 学、大鳥精司、小田剛紀、川原範夫、高相晶士、田中信弘、筑田博隆、
千葉一裕、西田康太郎、根尾昌志、長谷川和宏、波呂浩孝、松山幸弘、山田 宏、
渡辺雅彦

【出席した監事】小澤浩司、小西宏昭

【出席したオブザーバー】大和 雄(第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会事務局長)

【議事の経過の要領及びその結果】理事長・松山幸弘が議長となり、開会を宣して議事に入った。
会議はweb会議で行われた。

1. 理事長挨拶

松山理事長が、コロナ禍に伴う理事会の開催様式について、一回の時間を短くし開催回数を増やすという前回の決定を再確認した。

審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

前回議事録について一同承知し、修正等ある場合は渡辺理事へ一報することになった。

2. 国際委員会より：OPLL 3rd Editionの配布先について

伊東理事が、脊柱靭帯骨化症についてまとめた『OPLL 3rd Edition』(1冊2万円)の海外への配布予定先(19か国の学会、先生や施設)を提案した。合計40件ほどで、経費としては約90万円になる。一同検討の結果、『OPLL 3rd Edition』を海外へ配布することは承認し、配布先については国際委員会で再度精査検討することになった。

3. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査(5月分)

5月の入退会について一同検討の結果、全員を承認とした。

松山理事長が、脳神経外科の先生の入会があることに関して、整形以外を専門とする先生方の入会も前向きに考えたいと発言した。

4. モニタリングWGのメンバー追加について

今釜史郎先生に責任者が代わったことに伴い、以下のメンバーの追加を承認した。

安藤 圭 名古屋大学

橋本 淳 東京医科歯科大学

森戸 伸治 久留米大学

高谷 恒範 奈良県立医科大学 非会員

5. プロジェクト委員会の委員の追加について

委員の追加委嘱を検討し承認した。

大和 雄 浜松医科大学

長田 圭司 和歌山県立医科大学

6. 学術集会プログラム等検討委員会より：第49回学術集会開催状況について

大和事務局長が、9月に延期した学術集会について、座長・演者などの辞退状況、浜松医大の感染症対策室の専門家の意見に基づいて策定した新型コロナウイルスへの対策などを報告した。またweb開催にした場合の開催期間や配信システム他についても説明した。

松山会長が、現地開催とwebのハイブリッド開催は資金面から難しく、どちらか一方で実施したいと考えていること、7月になると会場のキャンセル費用が発生することを報告した。

一同検討の結果、9月の学術集会の現地開催を決議した。

7. その他

非会員の日当の件

渡辺理事が、現在非会員の委員（法律の専門家など）の日当は3万円であるが、昨今増加しているweb会議の場合は1万円としてはどうかと提案した。

一同検討のうえ承認し、定款等検討委員会に旅費内規の変更を依頼することとなった。

理事会等のメーリングリストの作成

メール審議に際して、理事会や各委員会、WGから作成希望があった各委員会等のメーリングリストの作成を事務局にて行うことになった。これに係る業務見積については、庶務担当理事が決済することになった。

会員への郵送でのお知らせ送付について

松山理事長が、各種案内について、従来は『JSR』に同封するチラシと会員限定ページの会告で告知してきたが、2020年1月から『JSR』が電子化したためチラシが使えなくなると説明した。会員へ確実に広報したい通知は郵送でお知らせを送りたいと提案した。一同検討の結果承認し、現在同封したい案内等がある場合は、6/24までに事務局あてに連絡することになった。

2. 審議・報告事項

1. 国際委員会報告

伊東理事が、委員会内で検討した以下について報告した。

1. APSS 2020 Shanghai (Oct.9-10,2020)

APSS2020 の開催、非開催が決定するまで様子を見る。

2. APSS APPOS2021 Kobe (June9-12,2021) の準備状況

スポンサーシップはあまり集まっておらず、収入面で大変厳しい状況。JSSR 理事から各企業へ、趣意書を送り依頼してはどうか。また JSSR からの拠出の場合は、石原税理士に拠出条件を確認する。

千葉理事が、学会として拠出は「会員全員のメリットになるかどうか」が判断基準になるので、ある一部の人だけが参加したり恩恵があったりすることには拠出は難しい旨発言した。

3. APSS Basic Course 2019 Tokyo の残金の寄付

2019 年に中村雅也委員長（前理事）代表でベイシックコースを開催した際の残金約 200 万円について APSS APPOS2021 Kobe の予算に拠出することを承認した。

4. KSSS2020 への参加について

オンライン開催が決まったので、オンラインにて参加を行う。

5. Spine Across the Sea 2021 の開催について

2021 年 7 月 5 日～8 日での開催が決定。日本側の積極的な出席をお願いしたい。

6. Spine Week 2023 Melbourne への参加について

2020 年の開催が中止となり、2023 年に開催予定となった。例年通りシンポジウム 1 枠を JSSR として参予定である。

7. 新型コロナ感染による Taiwan Spine Society の学会が延期

JSSR English Presentation award 受賞者 2 名の派遣が、来年度に延期となった。

8. SPINE20 に関する情報について

JSSR としては、COVID-19 下での 11 月上旬のリアドでの会議への正式な参加は困難であることを先方へ伝えた。引き続き伊東理事あるいは中村雅也委員長が会議に参加し、今後の動向についての情報を収集する立場で参加する。

2. DB委員会報告

筑田理事が、頸椎人工椎間板置換手術のデータベース構築に関する研究について、参加施設が増えるごとに毎回倫理審査を依頼し、新たな研究計画書をホームページへ掲載してきたが、日整会の JOANR 方式で、変更点を明示した文書（研究計画書 新旧対照表）をホームページへ掲載することで今後は進めていきたいと希望を述べた。

一同検討の結果、承認した。

また、委員会内の意思疎通をスムーズにするために内部に WG を設けて活動していることや、データベースの開発におけるベンダーの選定は JOANR との連携に重点を置いて検討中であることなどを報告した。

3. プロジェクト委員会報告

山田理事が、以下を報告した。

進行中プロジェクトについて：『頸椎由来の頸肩腕症状に対する薬物治療の臨床経済研究』については Covid-19 等の問題から症例登録が進んでいないが、各地区に研究統括者を置くなどして、今後研究促進を進める。

このプロジェクトでの経費が 325 万円ほどとなるが支出は可能かと問い、千葉理事が今年度の委員会費としてこの研究の名称で 1700 万円を計上しているので、全く問題ないと回答した。

新規プロジェクトについて：以下の 3 つの新規プロジェクトを検討中。

A) 腰曲がりに対する保存治療・外科治療の費用対効果研究

B) 不安定性を認めない Meyerding1 度腰椎変性すべり症に対する椎体間固定術と除圧術の費用対効果の検討 5 年追跡

C) 硬膜外ブロックへのステロイド併用の効果

4. 専門医制度委員会報告

波呂理事が、基幹研修施設公募の認定 2020年の脊椎脊髄外科専門医試験の日程 専門医試験問題集第2版作成 についてそれぞれ以下のように報告した。

については45施設からの応募があり、審査したところ最終的には問題なかったと報告した。

については2020年に試験を予定していた各種学会の延期やweb開催への変更に合わせて以下のように変更する予定である。

【2020年中の 脊椎脊髄外科専門医試験予定】

9月5日 場所：都内（品川予定） 日本脊髄障害医学会のwebへの変更のため、30名程度を募集

9月9日 場所：神戸 4月のJSSR学術集会延期に伴う振り替えのため追加募集なし。

11月8日 場所：都内予定 6月のNSJ学術集会延期に伴う振り替えのため追加募集なし。

については2016年に大学を卒業した専攻医を対象とした試験が2024年から開始されるため、新たな問題集をNSJ側の飛驒先生と高見先生とともに南江堂と企画している。

5. 倫理委員会報告

小田理事が、倫理審査を行う際の「審査申請書」を作成したこと、同時に「結果通知書」や「決定通知書」の書式を整えたとして最新版を提示した。しかし、その元となった日整会の申請書、倫理委員会での結果報告書（理事長あて）、決定通知書（理事長名）は昨年改定した倫理規則に合わせて改定予定であるため、脊椎脊髄病学会の倫理委員会ではその改訂を待って「臨床倫理審査申請書」「臨床倫理審査結果通知書」「臨床倫理審査決定通知書」を再度作製するという事になった。

また、一度すでに提出された研究計画書に微修正がなされる場合は「迅速審査」で対処できるよう、迅速審査に係る内容を倫理委員会規程に盛り込んだとして、修正版の規程を提示した。これは定款等検討委員会で検討されることとなった。

続けて、学術集会での発表に関して、日本外科学会ではほぼすべての演題について倫理に関する書類の提出を求めているが、日整会ではそうになっていない。しかし、現在日整会で検討中であることが川原理事より報告され、脊椎脊髄病学会でも日整会の決定に倣い進めていくことになった。

また、トレーサビリティの書式について、手順が多いことから委員会内で簡略化できないかを検討していると報告した。

6. 社会保険等システム検討委員会報告

大鳥理事が、今年の診療報酬改定の要望についても今月中を締め切りとして希望を聞きたいので、各理事からの意見や希望を大鳥理事が遠藤委員長までメールで連絡してほしいと依頼し、一同承知した。

また、2020年4月から脊椎脊髄手術に脊髄誘発電位測定が行われた場合、出来高で算定されてしまってその保険点数がDPCより低くなる矛盾について、厚労省へ申入れを行い、4月にさかのぼって包括評価対象とできることになったとの報告がなされた。

さらに、厚労省との行き違いによって、従来ヘルニコアの手術ができていたクリニック等が算定できなくなった件についても、厚労省へ申入れを行ったと説明した。

7. 新技術評価検証委員会報告

LIF 合併症調査：2019 年の調査が完了し解析に移っているが、審議の結果、その報告は『JSR』へ投稿することになった。また掲載箇所は JSR 編集委員会にて検討することになった。

ヘルニア関連：3 か月ごとに委員会にて施設審査を実施し、認定された施設についてはホームページへアップしている。

セメント注入型スクリューWG：セメント注入型スクリューの適応に関する手順書を WG にて作成した。ホームページへ掲載を希望する。

JSSR 統合型大規模データベース構築：新技術評価検証委員会のみでなくデータベースやプロジェクト委員会などいくつかの委員会を横断し、協力して進めていく。

8. その他の委員会報告

・広報委員会（田中理事）：ホームページの更新作業を進めている。松山理事長が、強力な広報ができるよう、ホームページは魅力ある内容にしてほしいと希望を述べ、委員会にて検討することとなった。

・指導医制度委員会（田中理事）：2020年度は、新規申請のみ10月に期日をずらして受け付ける。

・JSR編集委員会（長谷川理事）：以前は、日本医学会に加盟するために「学会の公式ジャーナルを毎月（年12回）発刊している必要がある」とされていたが、現状は特にその縛りはないとのが分かったため、今後委員会内で発刊回数などについて検討していきたいと発言した。

・定款等検討委員会（根尾理事）：前回の評議員選考委員会で問題になった点について委員会内で検討していく予定であるが、前回の選考委員会時に自分が理事ではなかったため、なにが特に問題だったのかわからないと発言した。松山理事長と長谷川理事が、特にどの英文論文をどのカテゴリーに当てはめて提出してもらうかなどの基準がなく、申請者ごとに違う基準で書類が提出されたため、再度代表論文を問い合わせるなどの問題が起こったことを説明した。

松山理事長が、一覧や表のようなものができていれば、申請者が迷わずに済み、審査する側も簡便になると考えるので、書式等について手を入れてほしいと依頼し、根尾理事が承知した。

9. その他

・次回理事会日程について

後日日程調整を行うことになった。

以上

令和2年6月18日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 松山幸弘

監事 小澤浩司

監事 小西宏昭